

柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会
《第二中学校区》

日時：令和6（2024）年3月30日（土）午後2時30分～4時

会場：比角コミュニティセンター

司会：本日は多くの方からご参加いただきまして大変ありがとうございます。ただいまから柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会を始めさせていただきます。本日の進行を務めさせていただきます防災・原子力課の吉原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日の懇談会の終了時間は、午後4時を予定しております。会の円滑な進行にご協力くださいますようよろしくお願いいたします。会議に先立ちまして皆様にお知らせとお願いがございます。会の途中、スタッフが写真撮影と録音をさせていただきます。写真につきましては、広報かしわざきや市のホームページに掲載するためでございます。録音は議事録を作成するために使用させていただきますのでこの点、どうぞご理解いただければというふうに思っております。また、報道機関による写真、ビデオ撮影がございますので、併せてご理解願いたいというふうに思います。それでは初めに市長桜井雅浩よりご挨拶を申し上げます。

市長：皆さんこんにちは。今日は土曜日、今日も天気も良くなって、非常に麗らかな日差しが、踏み込むところでございますけれども、今日は、私ども主催の原子力発電所の再稼働を巡る地域懇談会に皆様ご参集いただきましてありがとうございました。

今日は午前中は枇杷島コミセンで鏡が沖中学校区の方々を対象に懇談会をさせていただきました。今週27日からでしたかね、始まりましたけれども、この会場で二中校区、比角の会場で5ヶ所目となります。来週6ヶ所をやって全11地区、つまり市内全中学校が11校中学校でございますけれども、全中学校区で行うということでございます。

今日、先ほど課長の方からご説明申し上げましたが、4時を目処に閉会のお時間とさせていただきますが、前半30分を私の方で私の原子力発電所、また原子力発電所の再稼働、そしてまた、再生可能エネルギーなどに関する私の考え方をご説明申し上げて、そして残りの3分の2、1時間で皆様方からご質問なり、また、ご意見なりを承りたいというふうに思っておりますので、よろしくどうぞお願いいたします。

ええ、ではちょっとプリント、こっちでいいか。はい。まずは皆さんのお手元に2枚プリントがいつてると思いますけれども、基本的には○・×・△と書いてあるプリントをベースにいきますが、最初に色刷りのところ、柏崎市（新潟県2022年8月24日）と報道発表と書いてあるものをベースにさせていただきます。

さてと、皆様は、ご承知の通り、私、今、市長職を担わせていただいて8年目でございます。2回の市長選挙を当選させていただいたところでございます。その前の2回はご承知のように落選をしております。これもまたご承知の通り、ご本人はともかくも、原子力発電所に反対する立場の方々に押された候補に、結果として私2回負けておるところでございます。その後2011年に、福島事故が起こり、東日本大震災、福島事故、原子力発電所の事故は、もともと地震が起こったのは3月11日でありましたけれども、原子力発電所の事故が起こったのは3月12日であります。爆発事故を含めて、水素爆発事故でございますが、その後の2週間後、3月31日、私は自分の書いていたブログという、いわゆる日記みたいなもの、ホームページ公開しておったわけですけども、そこに私の今までの市会議員時代、14年間を含めて2回の市長選挙への当選、落選も含めて、そして原子力政策に対する考え方を含めて、原子力発電所の福島事故の2週間後、3月31日に私は政治活動から身を引くということを書いて政治団体を全て解散し、政治から身を引いたところでございます。その私の考え方や、決定したことに関しまして、9月に全戸新聞に折り込みチラシという形で入れさ

せていただき、私が政治から身を引いたということ、また原子力発電所、また環境問題に対する考え方を記したものを全戸配布させていただいたという形になります。

その後、事実関係だけ申し上げますが、今から8年ほど前、原子力発電所の反対派のリーダー的な議員さんからお声がけをいただき、もう一度、市長選挙に出たらどうだと、もうお一方、原発を推進する立場のリーダーでいらっしゃった議員さんからずっと前から変わらず、もう1回挑戦しろというふうに言われておりましたけれども、両方の議会、私の先輩格ではありますけれども、原子力発電所に反対する立場の方、リーダー、原発を推進する立場の方、リーダー両方からもう一度市長選挙に挑戦しろということを言われて、3回目の市長選挙に立候補することを決めたわけでありました。政治団体をもう1回作り直してということでございます。そして私の3回目の市長選挙においては、変わらずに原子力発電所は事故があったけれども、残念ながらだけれども、相矛盾するようだけれども、原子力発電所は今この時点においては必要である。再稼働には意義がある。しかし、同時に原子力発電所だけにとどまるべきではない。再生可能エネルギーなども環境エネルギー産業として構築していくべきであるというふうに申し上げて、当選をさせていただきました。その後、ご承知のように、私にもう一度立候補しろというふうに促した原発反対派のリーダーの方は、その後明確な原発反対派の候補者が出られたので、櫻井悪いと、やっぱり俺はお前を応援できないと、いう形になったところでございます。

さて、その後、8年経って8年目になっているわけでございますけれども、4年前の首長選挙も同様に私自身は原子力発電所の再稼働、意義はあると申し上げて立候補させていただきました。もちろん、市長職ですので、原子力発電所、エネルギー政策だけではなくて、福祉政策も教育政策も経済政策も、そして4年前は皆さんご承知のようにコロナの真っ只中でございました、コロナ対応はどうあるべきかということも含めて、自分の公約として掲げ、立候補し当選をさせていただいたところでございます。

そして、4年が過ぎて、今年1月1日、能登半島の地震が起こり、石川県における状況がテレビ等で放映をされ、市内においても、比角地区の方々も津波が来ると車で避難された方も多かったというふうに承知をするところでございます。

そういった中で、今、原子力発電所7号機の再稼働問題に関しましては、昨年12月27日に国、つまり、原子力規制委員会の許可が出ました。法的には、今から原子力発電所が稼働されても、全く問題はないということです、法的には。しかし、日本は柏崎刈羽も含めて、地元合意といったものが前提になるという形になっておりますので、これは法的な根拠は全くございません。ので、今、法的には動かすことができるけれども、まだ稼働がされていないという状況であります。

しかし、法的には動かす許可が出ておりますので、燃料装荷をしますというアナウンスメントが、先般、東京電力から発表され、来月4月15日には、核燃料が装荷されるということが発表されたところでございます。装荷はあくまでも検査の一環でございますので、これは再稼働とは認められません。再稼働するというのは、制御棒というものを引き抜くと、要は、実際に核分裂反応が起こり始めて電気を生み始めるという形になるわけですので、制御棒抜く段階で地元了解が得られた段階でという形になるだろうというふうに理解しております。

さて、以降、座らせていただきながらお話をさせていただきたいと思っております。

プリント、私の考え方は○・×・△の一番上に書いてあります。原子力発電所、繰り返しのようになりますが、現時点では重要であり、意義があると。そして徐々に確実に減らしながら、集中リスクを軽減していく。CN電力というのはカーボンニュートラル電力、原子力、再生可能エネルギー、つまり電力を作るときにCO2を出さない電力供給の拠点化に柏崎をするべきだというのが私の考え方です。

では別紙の方をご覧ください。GX 実行会議で示された、この GX 実行会議というのは、国が出したグリーントランスフォーメーション、つまり環境を考えた上で、日本のエネルギーを初めとした産業どうあるべきだろうかということ、国の方向性を示したものでございます。それに対して、一昨年、昨年ではなくて、一昨年、2022 年の 8 月 24 日に私が出したコメントでございます。このコメントが私の原子力発電所に対する考え方再稼働に対する考え方、再生可能エネルギーも含めたエネルギーに対する考え方を示しているものでありますので、一つ一つ読み上げさせていただきます。

- ① 再稼働の方針に、改めて柏崎刈羽 7、6 号機の名前が含まれるとするならば必然。
- ② 国の方向性、「安全性の確保を大前提とした上での原子力の最大限活用」が示された以上、新潟県におかれましては、「3 つの検証」について、行政手続法の観点からも、明確な結論を早期に出し、原発、再稼働問題の議論を始めて頂きたい。
- ③ 稼働標準期間を 40 年から 60 年に延長する方向性、検討も、日本のエネルギーセキュリティ、また、気候変動、地球温暖化を防ぐという原発の環境性能を考えても、海外の事例を勘案しても妥当
- ④ 原子力規制委員会による安全審査などに長期間を有している現状を鑑みると、40 年の期間から、審査期間、柏崎刈羽のように中越沖地震などで止めざるを得なかった期間、つまり原子炉稼働により放射化されなかった期間を減ずるのが合理的ではないかと思うが、この点にもしっかりとした基準が求められる。
- ⑤ 私自身は 1~7 号機全ての再稼働は経済的にも、安全面からも合理的ではないと考える立場なので、従来申し上げているように東京電力には 1 号機~5 号機の廃炉計画を出してもらいたいという考えに変化はない。もちろん、5 つ全てを廃炉してもらいたいということではない。
- ⑥ アメリカ合衆国においても、1 立地点で 3、4 の原子炉を有しているのが最高であり、福島事故を経験し、かつアメリカ、ヨーロッパ、中国などと比べても大規模地震が起きる確率がけた違いに大きい日本においてはエネルギーセキュリティ、環境性能を考えてもなお、原発は制約的であるべき、というのが私の考えである。
- ⑦ リプレイス、新增設の議論が出てくることは、ウクライナ情勢、エネルギー価格の高騰、経済、国民生活への影響を考えると、一般論として考えれば、これも自然な流れであると考え。
- ⑧ 柏崎刈羽原子力発電所の 1 立地点、柏崎市の市長として、この 53 年間原発賛成、反対と議論し続けてきた歴史に鑑みると、今、この時点でリプレイスだとか新增設などということは言える段階ではないと考える。
例えば、50 年間言われ続けてきた「トイレ無きマンション論争」核燃料サイクルに明確な方向性、光が見えない。六ヶ所村の使用済み核燃料再処理施設は 26 回目の竣工延期である。日本が未だ先進国だとするならばあり得ない事態である。むつ市、青森県の苦悩を見るとき、原発立地点として、さあ、原発、どんどん行こう、等とは到底言えない。
柏崎刈羽の使用済み燃料プールは全体で約 81%が埋まっている。再稼働を目指している 7 号機のもは約 97%、6 号機のもは約 92%埋まっている。
- ⑨ バックエンド問題も、敢えて言うが、寿都町、神恵内村の「男気」に頼るようでは国のエネルギー政策とは言えない。
- ⑩ 本当に腰の据えた国民的議論を、早期に、そしてしっかりとしていただきたい。国の存亡をも占うエネルギー政策を「これを機会に」「やっつけ仕事」ではいけない。納得がいく議論がなされ、結果が出されたとするならば、国がこれまで以上に、原発の科学的、合理的安全の確保を行い、住民が安心、かつ豊かな生活を享受できるような施策展開、原発の集中リスクの軽減、洋上風力発電の海底直流送電など再生可能エネルギー供給計画への柏崎市の参画等を担保していただけるならば、柏崎市はこれまで以上に国の GX、エネルギー政策の一端を担う覚悟はある。

このコメントも、柏崎市のホームページに載っておりますし、一昨年、1年半ほど前に出したところでございます。

○・×・△のプリントに戻ってください。事実関係です。では、なぜ、私が再稼働に意義があると申し上げるのかということでございます。まず事実関係をベースに、福島事故における廃炉、補償、復興などに関係する経費が23兆44000億円、23兆4000億円かかるということになっています。まず、これも21兆5000億だったですけども、それが上がって23兆4000億になりました。このうち、東京電力が責任を担う部分が約17兆円オーバーです。17兆円オーバーです。つまり、プラスの6兆円オーバーは、国民、私を含めて皆さんを含めて国民が負担することになっています。そして、17兆円というお金を東京電力が起こした、本当に矛盾してる話ですけども、東京電力が起こした事故によってこれだけ大きい被害があった。それを埋めるためには、東京電力が自ら稼ぎ出していかなきゃいけません。17兆円オーバーを稼ぐためには、矛盾してる話ですけども、原子力発電所を一つ動かすと、1100億円、年間1100億円利益が出ると言われています。1基です。1基あたり原発100万kWとしましょうか、100万kW級の原子力発電所1基あたりを稼働すると、年間約1100億円の利益が生まれると言われています。そういったものをまとめて、福島の補償、廃炉、復興にやはり資するという点に関しては、再稼働を、やはり矛盾してますけども、意義があると考えるところでございます。

続いて世界、日本の電源構成です。今、裏の方、プリントをご覧ください。プロジェクターにも出しておりますけども、まず皆さんお手元にある、円グラフを見てください。円グラフはこれ、2022年のグラフだったと思いますが、日本の電力がどういう発電方法で作られたかという円グラフです。つまり、石炭火力、石炭火力によって27.8%、LNG、液化天然ガス火力発電です、液化天然ガスを燃やして電力を作ることが29.9%、石油を燃やして火力発電3%、その他の火力が11.8%です。足し算をしますと、70%オーバーになるだろうと思いません。日本はそうです。今、目の前でありまして、こちらの方をご覧ください。これは2022年の、一昨年の日本のエネルギー供給です。36石油、石炭26、LNG・天然ガス21、足しますとこれだけでも70%オーバーになるわけでありまして。大体70%以上が火力発電によって作られている。原子力発電所は、福井を中心とした関西電力で作られてますし、また、九州でも動いています。四国でも3%です。再生可能エネルギーは、頑張ってる、頑張ってる太陽光もやっていますけど、今の段階では、14%の力しかありません。

では、プリントに戻っていただいて、横帯グラフを見てください。一番上に中国、アメリカと書いてあります。中国は、火力発電、石炭による火力発電が63.3%です。石油が0.1%、天然ガスが3.1%です。そうしますと、全部足しても、火力発電を足しても、60%台です。70%には行っていません。アメリカも同様です。アメリカも同様です。翻って日本、ロシアの下に日本があります。日本は足し算していただければわかると思いますが、天然ガスの34.6まで全部足していくと、残念ながら中国よりも、アメリカよりも火力発電をたくさんやって、CO2をどんどんどんどん出しながら、地球温暖化に貢献してるってことです。日本は恥ずかしながら、日本、世界の中で化石賞、地球温暖化の原因となるCO2をどんどん出している国、化石賞という恥ずかしい賞を受けました。これが今の、残念ながら日本の電力を作る実態です。世界の中でのポジションです。そういった意味で、私は今、ずっと何度も申し上げてますように、永遠に原子力発電所に頼るべきではないと考えています。しかし、今の段階では、原子力発電所は必要ですという根拠でございます。

下の方、せつかくでするので、日本列島が書いてあって、左側の料金が書いてあります。これは家庭用の電気料金です。東北電力、私達、電気使ってますがこれは東北電力です。東北電力管内7833円、去年のレベルです。この4月1日からまた電気料金上がります。そして関西電力5236円、なんで関西電力が安いのか、さっき申し上げましたように、福井の原子力

発電所を動かしてるからです。九州電力もそうです。玄海の原子力発電所を動かしているからです。これは実態でございます。右側の方、囲み記事、東北電力 65 万 5170 円、関西電力 53 万 1780 円、これは製造業を含めて業務用の電力を使うとするならばという比較です。原子力発電所を動かしている関西電力に比べて東北電力は 2 割以上高いという形になっています。

ページを前に戻してください、表に戻してください。けど、やっぱり福島の事故を見ると怖いじゃないのと。あれだけ多くの方々が避難をして、あれだけ多くの方が、亡くなったじゃないのという方もいらっしゃいます。しかし、この国連の科学委員会の報告によれば、これは毎年やっています、何年かおきにやっていますが。継続的にやっていますが、福島事故の後、国連科学委員会の報告によれば、黄色いアンダーラインをしております福島県民の健康被害で事故による放射線被ばくに直接起因するものと思われるものは記録されていないと。母親の胎内で被ばくした子供を含む小児については、云々、次、甲状腺がん以外の放射線影響云々、それぞれ見られそうにないと、予想されないと書いてあります。福島事故から 10 年余りも経っているところでも、これだけの結論が出ているところでございます。

こういったことから、私自身も先般、原子力規制委員会の田中委員長の、初代委員長の田中委員長のお話を伺って、基本的に放射線被ばくに直接起因する死者はいらっしゃらないということでございます。これは住民のみならず、福島の原子力発電所で働いている人も含めてでございます。

先般この地域懇会が始まる前に、東京電力柏崎刈羽原子力発電所の稲垣所長にお電話をしました、確認をしました。ご承知のように稲垣所長は福島事故で、その当事者です、いらっしゃった方です。福島の発電所に。そしていつまでいらっしゃいましたかと。福島事故の処理をする後始末をするのに、翌年の 6 月までいらっしゃった。つまり、福島の事故の起きた後、サイト内で 15 ヶ月働いていらっしゃって、失礼ですけども所長、大丈夫ですよ、大丈夫ですと。今、柏崎刈羽で働いていらっしゃる方々の中に多く、福島事故で、10 数ヶ月、後始末をして働いていた人たち、一般の方よりも被ばく線量が多かった人たちもたくさんいます。しかし、健康に今も柏崎刈羽で働いていますということ、稲垣所長からお聞かせいただきました。心配はしなければいけません。当然リスクはあります。しかし、事実として、それほど多くの心配が他に比べてあるのだろうかということも含めて、冷静に客観的に見なければいけません。

私は地球温暖化のことを冗談ではなく本当に心配しています。私自身は、去年も皆さんも体験しました、38 度の夏です。60 に私、来月になりますけども、昔の夏は 30 度でせいぜい、38 度の夏なんてありません。そして、今年の猛暑で、新潟県内でも熱中症で亡くなった方が新潟県内だけで 26 人いらっしゃいます。ここ数年で多くなっています。ここ 10 年で一番多いときは 30 人ぐらい新潟県内だけで熱中症で亡くなっています。もちろん、地球温暖化どうかというのはわかりません。しかし、新聞報道等を見れば熱中症、地球温暖化によりという枕詞が必ず書いてあります。そういったことを含めると、日本の全体で 1 年間で熱中症で亡くなる方は 1000 人を超えるのが毎年です。そうなってきました。そういった場合に、いろいろなリスクがありますけれども、そのリスクといったものを客観的に冷静に見なければいけないだろうと思っております。

電気料金のことはさっき申し上げました。能登半島の地震見て、あれだけみんな、家がどんどん崩れちゃって、車も取れなくなって心配じゃないか、避難できないじゃないかというご心配もあります。一般住宅の耐震化率、石川県は残念ながらですけども、46%から 64%です。

皆さんには直接こういうふうな、石川県の各自治体ごとの、私自分で耐震化率調べました。一番低いところは 46%、もっと正確に言えば、一番低いところは耐震化率がわからないと言

うほど低い。翻って柏崎市は中越地震、中越沖地震を経験をして耐震化率は今 89%に上がっています。近隣の自治体、長岡も 90%、上越は 87%、石川県に比べて、石川県の人には大変失礼な言い方かもしれませんが、固有名詞を挙げませんが、自治体の名前は挙げませんが、石川県よりも 30 ポイントも 40 ポイントも新潟県は、耐震化率は高いということです。道路の整備状況も同じです。

能登半島の地震で割れ残り断層といったものがあって、心配をされています。その割れ残り断層が動いたことによって地震が起きたら津波の大可能性があると、3m の津波の可能性があるとされています。そして皆さんも先ほど申し上げたように、1 日、津波が来るといふことで私も防災無線でも高いところに避難してくださいと申し上げたということもありますけれども、テレビではすぐに避難してくださいでした。能登半島沖の津波の割れ残り断層による津波の予想水位は 3m です。

これは中央地区のハザードマップです。皆さんのご自宅にあるハザードマップです。比角なんか出てねえねっかというふうなお叱りを何回もいただきました。出てないのはシミュレーションによれば比角地区、津波は可能性としてないということでもあります。

この中央地区、今割れ残り断層による地震の基準水位は 3m 予測するというふうに申しあげましたけれども、このシミュレーションは新潟県によって作られたものでありますが、3m の高い、4.9m の基準水位の津波が来たとして、この色が塗ってあるところが、浸水地域です。白いところは浸水しないと、津波が来ないといふところがございます。ですから、比角の方も来ないということでもあります。もちろん、絶対かと 100%かと言われると、何度も申し上げていますが、物事を 100%というのはいわゆるあり得ないわけです。

しかし、シミュレーションによれば、3m ではなくて 4.9m のシミュレーションをしても、いわゆる私達が花火を見ているとき、花火見ているときに地震が起こって津波が来たらどうすんだということになると、確かにそれは、ここはまさに浸水地域になりますから。しかし、そうでない限り、浸水の可能性は少ない、低いということがございます。

あと 5 分ほどで終わります。下の方、東北電力、実は今、この再稼働を巡って柏崎が、また、新潟県が、刈羽がという形にいろいろ話題を提供しているかもしれませんが、今ほど申し上げたように今使ってる私達の電気はこれ東北電力です。

東北電力は原子力発電所が女川にあります。女川はご承知のように東日本大震災で、町そのものが津波に飲み込まれ、甚大な被害を受けた自治体です。しかし、女川にある原子力発電所は無傷でした。ほぼ大きな損傷もなかった。女川の方々は女川の原子力発電所に避難した方もいらっしゃると思います。その女川の原子力発電所が福島事故を経て、この 9 月に動き出す、動く予定です。既に宮城県の知事、女川の町長、石巻の市長の地元了解は終わっています。原発なんかやだという人もたくさんいらっしゃると思います。しかし、この 9 月以降、女川の原子力発電所の電力が東北電力管内である私達にも流れてきます。もしかしたら、宮城の方々から見れば、新潟が使う電力を何で私達がリスクを冒して、認めなきゃいけないんだという議論があってもおかしくはないわけです。私達の中にも東京が使う電力を何で柏崎が認めてリスクを犯さなきゃ駄目なんだという方もいらっしゃるだろうと思います。同じような構図が、今、女川の原子力発電所にもあるという、事実として。この 9 月以降、そして 9 月以降、期待としては原子力発電所が動き始めるので、東北電力の電気も少し安くなってもらいたいという期待もあります。

一番最後のポツです。東電は、福島事故を経て、反省を重ね、そしてその責任を担うために、東京電力の原子力本部 300 人を、東京本社にいる 300 人を柏崎に移します。200 人はエネルギーホールに新しいビルを作って 200 人はそこで本部機能、原子力本部として機能させ、勤務します、生活をします。100 人は原発のサイト内で原子力本部の人間が機能します。つまり、300 人は柏崎に住んで、刈羽に住んで、その責任を担う覚悟を示そうとしています。社員寮も建築されるというところがございます。

原発の○・×・△でございます。先ほど申し上げましたように資源小国である日本においては、エネルギーセキュリティ、安定性は重要であります、気候変動、地球温暖化を防止するという役割を。今、安全対策工事において5000人から6000人の方々が働いていらっしゃいます。そのうち54%は柏崎市民です。動き始めると13ヶ月にいったん、約2ヶ月の定期点検があり、そこでは大きな何千人もの人が働くこととなります。皆さんもご家庭で電気料金の軽減を受けていらっしゃいます。毎年1万8912円が皆さんの口座に振り込まれてると思います。「いや俺は原発反対だから今後も受け取らない」という方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、一般のご家庭には1万8912円が振り込まれているはずで、前から言われてるように国からの交付金、固定資産税等、市の財政的なメリットもございます。また私は何よりも日本石油発祥から始まり石油、そして55年前から原子力発電という形で日本の高度経済成長を、柏崎は石油、原子力という形でエネルギーの面から支えてきた、責任を担ってきたという歴史に私は誇りを持っています。当然これはそんがもんいらんという人もいらっしゃると思います。

×の方です。これは、私は全部一つ一つ、人様が書いたものを写して持ってきたわけじゃありません。全部私が自分で作りましたこの表も×、福島事故×です。広島、長崎原子爆弾の被害イメージ×です。使用済み核燃料、先ほど申し上げましたようにバックエンドがまだ決まっていません。新潟地震、中越地震、中越沖地震、能登半島地震起こりました。地震大国である×です。テロの標的になりうるじゃないか×です。冬の悪天候、雪、風、×です。そして何よりも私は原発誘致以来55年間、私は常に市会議員の選挙を4回やりました。市長選挙を4回やりました。そのたびに、原発賛成なのか反対なのか、特に市長選挙に関しては冒頭申し上げましたように、そればかりじゃないでしょうと言われてながらも、プルサーマルのときにも、激しい選挙を含めて、常に原発の問題だけで市が二分されてきた55年というのは、私にとっては、これは×です。

そういったことを含めても、私はやはり、×もあるけれども、私は、今の柏崎にとって、新潟県にとって、日本にとって、また世界にとって、地球温暖化防止をするということ、気候変動を防ぐということにとっても、私は再稼働に意義があるというふうに考えるところでございます。

ちょうど30分過ぎました。以上で私の方からのお話を終わらせていただきますので、残りの1時間は皆様から、遠慮のない、率直なご意見を賜りたい、またご質問を賜りたいと思います。今日午前中、枇杷島でかなりやられてきましたので、ちょっと元気を失いつつありますけれども、もう1回お昼食べて復活してまいりましたので、遠慮なくどうぞよろしく願います。

司会：はい、それではこれからは参加者の皆様からご意見ご質問の方をお受けしたいというふうに思っております。多くの方からご意見ご質問を受けたいと思っておりますのでお1人様1問ということでご協力の方よろしく願います。1問ごとに市長の方からお答えをさせていただきます。ご発言いただく際には挙手いただきまして、スタッフがマイクをお持ちいたします。町名とお名前をおっしゃってからお話くださいますようご協力の方よろしく願います。それではいかがでございましょうか。はい。今マイクをお持ちします。

質問者：〈町名〉の〈名前〉です。私が原発の透明性を確保する地域の会の委員をやっていた頃に、福島原発の爆発事故が起こり、日本が減じるのではないかとぞっとしました。放射能災害の深刻さを直視したドイツのメルケル首相は、直ちに脱原発の決断をし、方針転換はその年のうちにしました。しかし日本では未だにそうになっていません。何が問題なのかと考え、放射能災害の歴史を振り返ってみました。

まず第1は核実験です。アメリカでは、核実験がネバダ州で100回も行われ、その風下地域

で小児の甲状腺がんや白血病は多発しました。そこで、風下地域の科学者と市民のグループが、放射能が原因ではないかと考え、子供たちの体にどれほどの放射能が入っているのかを、乳歯を使って調べました。子供たちの抜け落ちた乳歯が30万本も集まりました。調査の結果、乳歯に含まれるストロンチウム90の量は、核実験開始から6、7年後に7から8倍に増加していました。その衝撃的な結果が、当時のケネディ大統領を動かし、1963年に大気圏内の核実験禁止条約が結ばれ、その後、ストロンチウム90も小児がんも急速に減少しました。ところがです。しかし当時の原子力委員会は一貫して核実験による放射能被害を否定し続け、30年以上後の1997年になってやっと最大21万人もの甲状腺がんの被害があったことを、認めました。

第2はチェルノブイリ原発事故です。小児甲状腺がん多発の原因が、放射性ヨウ素の内部被ばくであることが、初め、否定されていたのですが、事故後15年たってやっと認められました。

第3は福島原発事故です。今も300人以上の子供たちが、甲状腺がんにかかり、手術を受けるなど深刻な被害に苦しんでいます。

その原因は、多くの証拠から放射性ヨウ素の内部被ばくであることは明らかだと思います。しかし政府は事故後、13年も経つのに未だにそれを認めていません。私は以上のように、これまで放射能災害の危険性が著しく過小評価されてきたことは、問題の核心だと思います。こんな状況で再稼働した原発で過酷事故が起きたらどうなるのでしょうか。私達30キロ圏内のUPZの住民の避難開始は、放射線量が平常時の1万倍の毎時500マイクロシーベルト以上になってからです。これは規制委員会なんかの説明では、この線量は、やけどや脱毛などはしないが、後になってがんや白血病が出る線量です。このような杜撰な防護対策しかできない状況では、とても再稼働を容認することはできません。ちょっとついでに言いますとアメリカでは地域の避難計画がちゃんと政府が、

司会：すいません、〈質問者〉さん、質問の方まとめていただいてよろしいですか。

質問者：はい。そういうことで政府としてきちんと規制しないで、市や県にも丸投げして、あの責任を取らないってことは非常に不信感を強く持っております。以上です。

市長：はい、ありがとうございました。はい、〈質問者〉さんと同じような議論を私、議員のときから、要はプルサーマルのときから、もうかれこれ30年近く議論をさせていただいておりますけれども、なかなかかみ合わないところがございます。いろいろな見解はあろうかと思えます。アメリカの事例もお話されました。また福島の甲状腺、子供たちの甲状腺の課題に関してもお話されました。何が正確なものかというのはわかりません。しかし、私自身は、先ほど申し上げましたように、そこに記載していますように、国連の調査、これは1回やってのみではなくて、定期的にやって、福島事故の後から定期的にやっている調査報告を見ていただければというふうに思っています。このへんは、どういった調査、数字を信じるかというのは、残念ながら見解が分かるところでございます。

それから、チェルノブイリ、今この頃、チョルノービリというふうに呼んでますけど、チョルノービリと福島事故は根本的にその事故において性格が違うということは、〈質問者〉さんもお理解いただけるだろうと思えます。福島は水素爆発でございます。いうことをご理解賜りたいと思えます。

それから、先ほど申し上げましたように、私はもちろん専門家ではありません。ドクターでもないですし、テストでもないですけれども、少なくとも、放射性物質を、いわゆる長期間、長い間受けると、もしくは吸い込むということに関しては、それは健康被害をもたらすものだろうというふうに理解をしておりますけれども、今申し上げたように、先ほど申し上げましたように、福島の事例を申し上げるならば、一定のすぐに放射性物質が放出されるわけではないわけですので、事故があったとしても、一定の期間の中で避難を行えばと結果的

にいろいろな会場で言われます。結果的に誰も知らないで、誰も健康被害がなかったら避難なんかしなくてもよかったじゃないかと。それは結果論であります。結果論であります。行政が避難しないでいいなどと言えるわけがありませんし、言うわけがありません。しかし幸いなことに、幸いなことに、健康被害はなかったという見解を私は信じるところでございます。もちろん、国連なんか信じられないという方はまた、それはそれで仕方ないのかなというふうに思っております。いずれにせよ、私は避難計画の事をお話されましたけれども基本的には、避難計画に関しましても、国が一元的な責任を担っているというふうに思っています。しかし、地元のことは地元がよく知っているわけですので、花角知事、品田村長、私と実効性ある避難を少しでも行うためにという形で、要望を出している、5つの要望を出していることもご理解いただきたいと思います。

司会：はい、〈質問者〉様、大変ありがとうございました。他の方がいかがでしょうか。はい。一番前の方、今、マイクをお持ちしますのでお待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉と申します。市長さん、先ほど説明した○・×・△の表なんです、この△はどういうふうに読み取ればよろしいですか。

市長：はい。申し訳ありません。○・×・△の△ですけど×の方にも△、○の方にも△ということは○だと思って私は○の方に書いてるんですけども、見方によってはさっき申し上げた一番最後○の方の一番最後、柏崎は石油、原発、日本の経済を支えてきた自負、誇りがあるというふうには私は○だと思ってますけど、見方によっては△の人も、×の人もいるかなということで、△の方もあるということでございます。それから、×の方の△も、私、一番最後に市を二分してきたのは私は×だと思ってはいますが、見方によっては、議論が活発に行われたということは良かったことじゃないかという方もいらっしゃるものですから、△も入れておいたということでございます。

司会：ご質問ありがとうございました。他の方がいかがでしょうか。はい。一番後ろの方。

質問者：〈町名〉、〈名前〉といいます。今、説明の中で福島県のなんか放射能被ばく云々というのが健康被害には直接起因してないというのがありますが、一番考えるのは、私はここにいて一番考えるのは自分らの安心安全ということでありまして。とすれば、福島県から柏崎始め、全国へ散らばった、避難されている方々へのその配慮というか、その記述がないのはちょっとおかしいというふうに判断いたします。それと私、今日来るつもりもなかったんですけども、先日、テレビで市長が言われましたけども、原発再稼働に関して、市議会で決議があって、そのワンピースが埋まったというふうなことを言っておられましたけれども、その中の市議の発言の中でここにも書いてありますけども原発に来る、原発からの従業員が300人来て柏崎が人口増になって経済の活性化に繋がるというようなことが言われた。それからもう1つのテレビの放送ですと、規制庁のゴーサインが出たんだから、安全性は別の問題だというふうにテレビで報道されて、私も愕然として、それでちょっとここへ足を運ばせていただいたわけですから、その人口増が300人来たから、柏崎の人口が増えるというような観点、全くちょっとおかしいなというふうに思っています。他の一般の方の人口の移住というのが柏崎にどれくらいあるのか、ちょっと私はわかりませんが、例えば新聞、ニュース、開くたびに柏崎の原発は特に、外から来てですね、柏崎に住んでみようかなって思う人が本当いるだろうか。もし、増加の実績があったらまたご紹介いただきたいと思います。それと、あと・・・。

市長：申し訳ない、一つずつにしてください。ルールですので、他の方が終わって、また順

番回ってきたらそういうことにしてください。申し訳ありません。

まず、避難の、福島でも今、福島の方が避難されてる方がたくさんおられるけどもそういった方への配慮がないのは、書いてないのはおかしいじゃないかということを含めてでございますが、私自身はもちろん避難された方がたくさん今もおられる、柏崎にもいらっしゃいます。柏崎にもいらっしゃいます。私も承知しております。それで私自身も福島事故の後、市長になる前から、毎年、福島に実際に行っております。市長になる前からです。そして許されているところを歩いてますし、いろいろお話を伺っています。

そして私の住んでいる町内にも、福島から避難されている方もいらっしゃいます。一緒に祇園祭りで神輿も担ぎました。そういうことでよく承知しております。しかし、避難されてる方への配慮を、今ここには書くスペースまた、そういったことを今書く場ではないというふうに考えたからその避難者への云々とは書かれてないということでございます。

それから 300 人云々が人口が増えたからというのは私は少なくともお話してませんし、先ほど申し上げたのは、東京電力が事故を起こし、そうした責任を感じ、そしてこれだからまた再稼働するためにはということで、その責任を担う覚悟を示すために、原子力本部を柏崎に移したと、先ほど申し上げたところでございます。

そういった意味で、私は単純に 300 人、人口が増えたからよかったなどということは私は思っておりません。そしてなおかつ、柏崎は人口は残念ながら増えていません、減っています。恥ずかしながら、お前が駄目だと言われればそうかもしれません。恥ずかしながら、本当に人口が毎年 1000 人から 1200 人ほど減っています。赤ちゃんの生まれる数も少ないです。しかし、移住してきてくださる人は 200 人ほどいらっしゃいます。それも含めて残念ながら 1200、1300 減っているということでございます。以上でございます。

司会：〈質問者〉様、大変ありがとうございます。大変恐縮であります。お時間がありましたら再度ご発言をお願いできればというふうに思っております。他の方いかがでしょうか。はい。

質問者：すいません、〈質問者〉の〈名前〉です。100 個ぐらい質問を考えてきたんですけど、1 点だけということなんで、とりあえず一つやります。今、市長さん、いろいろ原発のどちらかというところの〇のところに力点を置いて話されましたけども、その中でこういう健康被害はなかったというお話されました、国連報告ですね。UNSCEAR の報告について、その 1 点だけ質問します。以下、私、述べますけども、私の知ってる限りで UNSCEAR の報告の問題点、山のようにあります。それを承知の上で福島の甲状腺がんがなかったとおっしゃって、子供たちが甲状腺がんで今、裁判したりですね、裁判もできない地域もやっと生きていく子供たちが 300 人を超えているわけです。その事実をどう考えているか、お答えいただきます。内容です、そもそもですね、UNSCEAR の報告は、日本からの委員が出てますけども、代表的なところでは、明石真言ですね。いわゆる原子力村の 1 学者だったあの人たちが暗躍してまとめている。UNSCEAR も元々の英文の方は、私は英語の方は極めて駄目なので、付き合わせていませんけども、日本語訳では原子力の健康被害はない、というふうに翻訳されていますが、英語の原本では必ずしも健康被害を否定していないということですね。各界から非難、批判を浴びているわけですね。この UNSCEAR の報告の主な論点は、被ばく量が少ないから甲状腺がんが増えるはずはないし、いないのだという論調なんですけども、被ばく量を減らす策略としてですね、1. ヨウ素の摂取量日本人は割と多いとされてますけども、実測データで調べると今、日本人のヨウ素摂取量は多くありません。ですから放射性ヨウ素が入った場合は、それなりに被ばくします。子供なんかなおさらです。それから、屋内退避で被ばく量が大幅に減るとしてはありますが、これも時間が経てば誤りです。出荷制限が当時 3.11 の後、行われたのは 3.26 ぐらい、かなり経ってからですけども、それまでに流通した野菜とかですね、露地野菜とか炊き出しによる内部被ばくというのは、水道だけチェックされてますけど他は全部計算に入っていないです。

それから、いろんな被ばくは、少量被ばくする人から大量被ばくする人まで、一定程度ばらつきは当然あるんですけども、それを全部平均値で処理しているの、場合によっては7、8倍、1000倍近い差が出ていると。つまり、高線量被ばくした人たちが全部無視されているという。そして、日本の被ばくデータっていうのは、1000人を、ご存知のように1000人ほどのデータがあるわけですけども、これは被ばく線量が比較的低くなったところで人を選んでされて、その内容については本も出てますけども、ちょっと一言ではなかなか難しい、わかりづらいですけど、要するに本当に高線量被ばくした人たちが全部統計には入ってこない形でやられている。そういうふうな嘘を積み重ねてやったので甲状腺がんなんか増えるはずはないという結論になったわけですよ。だけど、甲状腺がんは実際に370人以上出てるわけで、370人出てるわけです。

この事実を隠蔽しようというのが今、日本の方針ですけども、市長さん、あくびしてないでちゃんと聞いてください。そうですか、すいません。それできちっとですね、その事実を本当に理解した上で、健康被害なんかなかったというのか、つまり、福島甲状腺がん、放射線になったという子供たちを市長さんは、お前たちはそんなのでなったんじゃないよとね、運悪くなっただけだということのかどうか、そのことをきちっとお答えください。

市長：はい。〈質問者〉さん、こうやって〈質問者〉さんと議論するのも地域の会も含めていろいろな場面でございますけれども、もちろん医学に関しては、私が反論したとしても、いらっしゃる方々は誰もが私の話に耳を傾けるレベルではないと思います。

〈質問者〉さんの方がそれこそ、何倍も何十倍も何百倍も見識は上です。しかし、他の会場でもそうだったんですけども、考え方が違う方だからといって、先ほどの明石さんのことも呼び捨てをすとか、原子力村の人間だとか、策略だとか、という言葉遣いは、…、いや、末梢ではありません。末梢ではありません。誰を信じるかという、誰を、ですから、何度も申し上げて、誰を信じるかということでもあります。ですから私はそういった言葉遣いや、される方の言説よりも、礼節な、もしくは正確な客観的な、国連科学委員会の説の方を信じるということでございます。

私は今、〈質問者〉さんがおっしゃった事実がどうか、事実であるかどうかというのはわかりません。

質問者：わかってから話してください。

市長：わかってからというのは、そうすれば、ドクター以外は。

質問者：そんなことはありません。そんなに難しくない、ちょっと見ればわかります。

市長：わかりました。では後ほど、私はこの科学委員会のものを英語辞書を引きながら調べて、もう1回私の、私の考え方を必ず〈質問者〉さんにお返しします。

司会：はい、〈質問者〉様、大変ありがとうございました。他の方、はい、先ほど手挙げられた方、今、マイクをお持ちしますのでお待ちください。

質問者：すいません、座ったままで失礼します。〈町名〉の〈名前〉と申します。立つとどうしても興奮するんですね、喋る時、座った方がゆっくり喋られるんじゃないかと思う。たまたま、ここ、〈医療機関〉先生もおられますんで、ちょっとお聞きしたいんですが、もちろん市長にもお聞きしたいんですが、悪性リンパ腫多発地帯の恐怖という本、これ宝島社という本ですね。敦賀の原発銀座に非常に多いと。それで、実は私も4期、柏崎の医療センターに75日入院して、ステージ4まで行きました。悪性リンパ腫、ホジキン病というのだそうです。これほとんど、〈医療機関〉先生も注目されてないのかなと思うんですけども、

市長はこの本、おそらくお読みになったと思うんですけど、お読みになったかどうかちょっと聞き、お聞きしたい。

市長：読んでません。読んでませんし、いろいろな本があります。もちろん、宝島社から出ている原子力発電所に関する健康被害があるんじゃないと言われるような本、今、〈質問者〉さんからご紹介いただいた本は読んでおりませんが、他の本は読んでおります。ただ、それが本当に原子力発電所によるものなのかどうなのかということは、私はなかなか判断できないと、私はそうではないというふうに考えておるところでございます。また、〈質問者〉さんと〈医療機関〉先生との会はこの会場ではなくて他の会場でぜひお願いしたいというふうに思ってます。

司会：はい、〈質問者〉様、大変ありがとうございました。他、まだご発言されてない方でご質問ある方おりますでしょうか。いかがでしょうか。はい。一番後ろの方にマイクをお持ちしますのでお待ちください。

質問者：はい、〈町名〉の〈名前〉と申しますが、最近4月15日に7号機の核燃料を挿入するという話、出ておりますよね、市長さんね。それについての市長さんの見解が何かはっきり避難がどうのから、いろいろ理由があると思うんですけども、それについて県の方も花角さんもそうですけれども、何かはっきりしないんですよ。もう少し様子見るようなことばかり言ってるんですけども、それについてどのようにお考えなのか。それからもう一つね、市長さんは、何か今の話だと、私はこの、これで終わりみたいなこと言っているんですけども、これがもし、再稼働とか、市長さんは1号機、1から5までの廃炉とか言っているんですけども、そういう問題を起こして、あなたはこれで任期、どういうふうに考えているか、これはまだはっきりしてないかと思うんですけどお答え願いたいと思います。

市長：後段の部分は間違いなく、大変申し訳ないです、〈質問者〉さん。1号機から5号機、さっき申し上げたように、1から5、廃炉計画を出してくれということであって、全部廃炉にしてくれということをお求めているわけではありませんので、それはお間違えなく。それから私の今後に関しては申し訳ないですけどもまだ、考え方をまとめておりません。議会の前でもお話しておりませんので。

それから、7号機の燃料装荷に関しては、私ははっきり申し上げております。これは検査を、装荷をしなければ、検査ができないわけですから、然るべきだというふうに思っています。評価を、どういう評価してるんだかよくわからないっていうのは私ではなくて他の方だろうというふうに思います。私は燃料装荷は法律によって認められているわけですから、燃料装荷は然るべきだというふうに考えております。先ほど申し上げたように、ただ燃料棒を抜く、ごめんなさい、制御棒を抜くということの作業は、法律的には別に地元自治体の許可はいらないですけども、いらないんですけども、日本の各地の原発は地元了解ということをもってやってらっしゃいますので、という形で、私は燃料装荷は検査の一環ですので、装荷しなければ検査もできないわけですので、然るべきだというふうに考えております。

司会：はい、〈質問者〉様、大変ありがとうございました。まだ、ご発言されてない方でご質問ある方おられますか、はい、今マイクをお持ちします。

質問者：〈町名〉の〈名前〉といいます。先ほど地元了解という言葉が出てきたのですが、いざ実際に原発が動くことが起きたときに、100%の合意とか、やはり得られないと思うんですね。そういうときに、その残りのやはり、まだ、反対のような気持ちを持っている方々に対してどのように接していくのか、説明していくのかなっていうのをお聞かせいただきたいと思います。

市長：はい、ありがとうございます。繰り返し申し上げますけれども、何事にも100%は無いわけです。当然、賛成、反対は別れるだろうと思います。今日も反対の方のご意見の方が多くに思いますけれども、しかし、どこかで決めなければいけない。民主主義国家である以上、最終的には多数決で決めます。そして、少数意見も尊重するということに関しては、今、私は何度も申し上げてる、こういう場を含めて、設けて、いろいろな方々のご意見をお伺いしているということでございます。

例えばこの前、3月21日に議会において、原子力発電所の再稼働を巡る請願が可決されました。今、議会の定数は22名でございます。議長は採決に加われませんので、採決に加わった方は21名です。原発の再稼働に賛成する立場の方、つまり請願に賛成する立場の方が16名です。反対された方が5名です。この差は、やはり大きな差であるというふうに考えております。議員さんは、市民の皆様の代表であります。その議員さんが21名中16名が再稼働に賛成し、5名が反対したということになれば、冒頭申し上げましたように、私は議会の議決というのは、一番重要な、私が判断するワンピースになるというふうに申し上げているところでございます。

ただ、そこだけで決めていいのかという部分がありますので、こういった会を、正直申し上げますけれども、さっき冒頭申し上げましたけど、もうこの頃、かなりのご意見が出てくるので、私もやらなきゃよかったかなと、正直思うところもあります。

けれども、これは私の責任なんだなと思ってます。こんな性格でございますので、という形で再稼働を認めたとしても、決めっぱなしではなくて、また、反対、心配の方々の声は、いかなる形であっても、聞き取りはさせていただきたいと思ってます。

司会：はい、ご質問ありがとうございました。他の方でまだ、ご発言されてない方のご意見、ご質問ございますでしょうか。はい、今、マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉といいます。まず、反対のご意見がかなり聞こえたんですけど、もう、私自身は原発の稼働に賛成の立場でございます。一刻も早く動かしていただきたいという立場でお話させていただきましても、今の櫻井市長のお話を聞きまして、ますます動かしていただきたいなという気持ちを持っているものでございます。その中で、柏崎の経済の効果について、いろいろなこのような形で効果、出ますよということでお話されたけども、その中においても、柏崎の消費、低迷している中で、大きく柏崎に貢献するのが、資産、特に株式です。

東京電力の株式、柏崎市内で持っている方、おそらく他の地域に比べると断然多いです。東電の社員の中でも、自社株制度を持っています。株が今回100円までいった株が950円まで来たと、この資産効果はすごく大きいものです。

なおかつ、再稼働した場合には、これももちろん安全を前提での話ですけども、柏崎市内においての資産効果、あと、万が一、配当が出るということになると、配当の効果というのは柏崎の消費に莫大な影響を与えます。住宅、車の買い替え、業務全てにおいて資産効果が出てきます。そのような資産の効果、今、県はやってますけども、柏崎において、株式の資産効果というのはどのくらい影響があるのか。これ算出してるのかどうかというのをちょっとお聞きしたいと思います。

市長：はい、ありがとうございます。せっかくご質問いただいたのに残念ながら良い答えがなくて。答えを申し上げますと算出、いわゆる東電株による配当を含めた資産効果は計算をしております。4年ほど前に商工会議所さんと東電が、原発があることによる経済的な効果はどのくらいなんだということを、西川会頭と2人で話しながら、聞いてみるかということ、2人で話してたわけです。しかし、50数年になりますけども、一体、柏崎に経済効果があると言われてるけども、どれくらい柏崎で、消費してもらってるのか、どれくらい

柏崎の企業を使っていたかということ、この50年間誰も聞いてなかったんです。怖くて聞けなかった。じゃあ、回答を聞いてくださいよ、いや、それは市長の仕事だろうということで結果的に私、聞いて、約、年間、3、4年前ですけども、少し数字が上がってると思いますけども、3、4年前に約、東電関係の仕事も含めて、経済、効果は約1000億だというふうには、全体で、全体で1000億の仕事が毎年なされていると思います。その中で柏崎の部分は10%、約100億円ぐらいでした。

さあ、多いと見るか少ないと見るかです。柏崎の市役所、新しくした市役所は70億から80億だと思ってください。あの市役所の建物が。それと同じもの以上のものが100億ですと、毎年作られる、もしくはそういったものに換算するとですね。しかし、私は、1000億の中で、柏崎で直接落ちているものが100億というのはちょっと少ないんじゃないかということをおっしゃるところでございます。

そして今回、安全対策工事を含めて将来の、また、再稼働等も含めて、もう少し地元の産業、企業を大事にしてもらいたい、地元の購買率等も上げてもらいたいということは東電に申し上げているところでございますし、株式の配当効果は別として、再稼働の暁には、さっき冒頭申し上げましたように、私達、使ってるのは東京電力の電気ではなくて東北電力の電気です。再稼働の暁には、柏崎に、柏崎の原発で作られた電気を希望する人は使えるようにしてもらいたいと、他の地域よりも安く、ということは何度も申し上げています。これは国にも申し上げていますし、東電にも申し上げています。難しい方程式がありますけれども、それは先ほど申し上げたように、なんだ、東京のためになんで俺たちがこんな難儀しなきゃ駄目なんだということに対する一定の答えにもなるだろうと思います。

もちろん原発の電気がいらんと、言う人はそれを選択すればいいと思います。そういったことも含めて、東電がここにいる効果、東電が原子力発電所を動かして電力を生み出すことによる地元への効果といったものも、確かにお話しいただいたように、わかりやすく伝える必要があると思います。ちょっと株主が誰がいらっしゃるか、どれぐらい株持ってらっしゃるかかわかりませんが、少なくとも私は思ってませんけれども、いずれにせよ、少しそういった効果もあるんだなということは、少し研究してみたいと思ってます。ありがとうございました。

司会：〈質問者〉様、大変ありがとうございました。まだご発言されてない方でご意見ご質問ある方おられますでしょうか。はい、今マイクをお持ちしますのでお待ちください。

質問者：座ったままで失礼します。すいません、〈町名〉の〈名前〉と申します。櫻井市長さんがここに表を2つ作ってくださって、ちょっとあの、今さっきの人と同じような感じなんです、市報にはきっと報告が載ってると思うんですけども、経済的になっていうことで国からの交付金とか、固定資産税とかのメリット。それともう一つは下の表で使用済み核燃料の最終処分、この2点についてちょっと数字的なものとか、もう少し具体的な内容を教えていただきたいんですが、よろしくお願ひします。

市長：固定資産税等に関しましては、固定資産税と、それからいわゆる原発財源交付金等の問題がございます。税金のことは、いくら東京電力でも私ども守秘義務がありますので申し上げられませんけれども、いわゆる電源、いわゆる原発財源というものをひとくくりにしなすと、ひとくくりにしなすと、年間柏崎市の場合は約75億円でございます。75億円という数字はどうなのかってことになりなすと、柏崎の一般会計、皆さんの教育も福祉もみんな含めて、経済対策も含めて、柏崎市の会計は一般会計は、当初予算は478億円でございます。そのための75億円分が、原子力発電所に関連する交付金、国からの交付金だったり固定資産税だったりするということです。

今から20年ほど前は、その75億円が倍ありました。つまり150億円ありました。つまり、市に入る歳入の収入、歳入の3分の1が原子力発電所に関係する財源であったというのが事

実です。今はそうしますと、約3分の1の半分で6分の1という形になろうかというふうに思っております。

それから使用済み核燃料の問題でございませけれども、使用済み核燃料は、今ちょっといいグラフがあったんですけども、ちょっと見当たらないんですが、ちょっとすいません。口頭で申し上げますけれども、さっき申し上げたように、原発の1号機から7号機全ての中で、埋まっているのが、使用済み核燃料が81%埋まっています。残り19%ということです。7号機動かそうとしている。7号機に関しては97%埋まっています。私は再稼働までには東京電力にはおおむね80%以下にしてもらいたいと申し上げます。それが要件だというふうに申し上げているところです。なぜならば、97%の使用済み核燃料プールであれば、動かしたとしても1年2年ですぐに埋まってしまう。止めざるを得なくなってしまう。そういうことですので、全体で81%ですけども、それを減らさないと駄目ですけども、駄目な、全体を減らすためには、外に持っていかなければいけない。

どこに持っていくのかというと、さっき申し上げたように青森県のむつ市に使用済み核燃料の1次貯蔵施設がございませ。そこにこの7月以降、柏崎刈羽の原子力発電所から運び込まれる予定になっております。そして、ああいったところに7号機97%埋まっているところの一部が7号機から空いているところに動かされるということになろうかというふうに思っています。ちなみにこの使用済み核燃料に税金をかけさせていただいておりますけれども、この税金は7億5000万ほどございませ。以上でございませ。

司会：〈質問者〉様、ご質問ありがとうございました。まだ、ご質問されてない方、はい、今、マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：座って失礼します。ちょっと喋りづらい状態なんで、お聞きづらいかと。事故についてなんですけど、避難、（ご町内とお名前だけ申し上げて…）すいません、忘れて。〈町名〉の〈名前〉です。

避難のことですが、現実いろいろ課題が出て、それについて、市長さんの方の話も国の方にはお願いはしているということらしいんですが。私達が見たり、聞いたりするのは、どこまでそれがきちんと整理をされて、特に今回は能登半島の地震、山間地でこら辺より雪が少なかった、柏崎は大雪で大変な時もあるわけですから、そういうことを含めてもうちょっとこうはっきりしてから、この再稼働がどうだっというんだったら、まだ、まだ私は納得できる、事故はゼロじゃないんですけども。今言ったように、さあ、装荷しました、ここまで行きました。原子力の事ですか、実際。これまで考えつかなかったことも起こり得る可能性があった場合に、またその避難の段取り、いろんな道路の整備から、例えばその、車がどうすんだ、今もね、見ると、船がどうだとかいろんな話が出てますけども、明確なものがない中で、こういった話がちょっと進んでいくのは私は非常に危惧しております。

市長さんがこら辺、いつまでにそれ、その国にお願いしたり、県と話したりして整理をしていくのかっていうことをちょっとお聞きしたいと思うんです。

市長：はい。避難のことについてどこまで整備して、そして再稼働、今のまんまじゃ、ちょっと困るじゃないかという話でございませ。ちょっとこちらの図面をご覧ください。私、今から3年前にこの図面を書いて、マジックで書いた図面です。原子力発電所の方にございませ、5キロ圏内がこの黒い丸、半円でございませ。柏崎市は、比角の方も含めてですけども、その当時8万人いたわけですけども、8万人のうち、今、7万7000ですが、6万人は、つまり75%は上越市、糸魚川市、妙高市の方に避難することになっています。繰り返しますが、柏崎市民の方々の75%は上越市、糸魚川市、妙高市の方に避難することになっています。そうしますと、普通、上越、妙高、糸魚川の方に避難するためには、8号線を使います、もしくは高速道路を使います。この辺の方々であれば、柏崎インターから乗ってという方もいらっしゃるかもしれませ。もしくは米山インターという方もいらっしゃるかもしれ

ません。ところが、8号線においてネックは米山大橋です。ご承知のように、全国の国道の中で唯一1つだけ、風によって通行止めになる可能性があるのは、全国の国道の中でこの米山大橋1つだけです。風で通行止めになると、いざというときに避難するのに、米山インターに乗れない、もしくは8号線で米山大橋の向こう側に行けないという形になります。下に降りて、青海川に降りていけばいいじゃないかと。青海川において普通車は行けます。ところが、大型車は下に行けないんです。

国に先ほど申し上げたように知事と村長と要望しているのは5つ。1つは米山インターチェンジを米山大橋の柏崎寄りに移設するか、手前にあるサービスエリアに直接入って行って高速道路に乗れるようにしてくださいというのが1つ。もう1つ、8号線も一昨年、雪で止まったじゃないかと、高速も止まったじゃないかと。いうことになると、上越、妙高の方に行き、糸魚川行けないわけですね。そうするとこの国道353、鶴川に向かう国道353、野田交差点から西の方に向かうと小村峠という峠があります。残念ながら11月の下旬から今、4月の下旬までは冬季間通行止めになります。ここにトンネルを開けてくださいと。ここにトンネルを開ければ、8号線も高速道路も駄目でも行けますよということで2つ目です。3つ目、353、上方と高速道路の交差点部分に高速スマートインターチェンジを作ってくださいと。そうすれば、この辺の西の方々が柏崎インターに向かわなくても、柏崎インターに向かうということは原発の方に向かって避難するって形になりますので、そうでなくても、上方のインターから高速道路に乗って行かれますよと。もう1つ、曾地峠のこのスマートインター、刈羽の方の方々も使いやすいということで、曾地峠のここにスマートインターを作ってくださいというのが1つ。そして、一番最初に掲げたのはこの……とまだできてまだないところなんですけども、8号線のバイパスです。5キロ圏内PAZ圏内の方々を西の方に避難させるには、この8号線のバイパスを一刻も早く開通させてくださいという要望を含めて、5つ要望したところでございます。いつになったらそれできるんだということではありますが、まず、この要望した答えは、今年早々に、もう1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月ぐらいの中でお返事は来るだろうと思っています。

かなり大企業ばかりですけれども、私はほぼ満額回答を国からいただけるだろうと。もちろん市は払いません。県も払いません。国が全額負担をしてもらいます。というふうに交渉して参りましたので、多分、満額回答に近いお答えを今年夏前が夏前頃までにはお聞かせいただけるというふうに期待しておりますし、確信をしております。けど、計画ができてもお金がついても、道路ができなきゃどうしようもねえねっかということもおっしゃる方もいらっしゃるだろうと思います。確かにそれは確かに正確なところですよ。しかし、何事も物事を100%できてからじゃないと何もできないということになると、何もできません。先ほどのCO2の問題、地球温暖化の問題も、CO2 どんどんどんどん出してしまいうから、原発を動かすなど言っているから、火力発電所を動かさんでいいのかということにはならないわけです。CO2を削減、削減する発電方法、なるべく考えながら、太陽光も増やしなごら、風力も増やしなごら、走りながら、より良いものを目指しながらけれども、私達、日常の安定的な豊かな生活、電気を使いたいという生活もやっていかなきゃいけないわけです。

そういったことで、全く今、道がないとか、何とかというわけではないわけですので、より理想的な避難経路を充実させることを目指しながら、一刻も早くこれを作ってもらいたいというふうに要望を強く要望しているのは、私の性格、皆さんご承知だろうと思いますので、多分、私なんかは、今国に行っても経済産業省でも塩をまかれてるだろうと思います。いや、本当そうだと思います。国交省においても。なんで正直こんなことをやらなきゃ駄目なんだと。いや、そんなこと言うんだしたら、ということです。私は、真剣にやらせていただいていることだけ信じていただくしかありません。

司会：はい、〈質問者〉様、大変ありがとうございました。まだご発言されてない方、今、マイクをお持ちします。

質問者：〈町名〉の〈名前〉といいます。情報が少ないんですけど、安全に運転して、安全に配慮をするにどういうことをしているのかと、東電さんが40年経って、どういうメンテをして、どういう人間も全部入れ替わってるはずなんですよ。どういう教育をして事故を起こさんようにしているのか。廃炉は、技術も伝承しなきゃ、廃炉も困難になるわけですから、早めに手を打ってもらわないと後では困るんですよ、これ。というのを東電さんに本当は説明していただいて安心させていただくのが一番だと思うんですけど。間に入った市が何でこういう説明するのかもよくわかりません。はい、よろしくお願いします。

市長：はい、東京電力の説明会も順次行われておりますので、また東京電力の説明会の際にもそれをお話したいと思いますが、確かに私自身も昨年の夏前には、またかというような事案が出てきて東京電力の方にも、本当に東京電力がこの原子力発電所を担うことができるんだろうかと疑問に思った時期も正直ございます。

しかし、よく東電じゃ駄目だという方もいらっしゃいます。東電ができなくて、ガラッとメンバーを変えて、柏崎刈羽の原子力発電所を運営できるかと私も想像しました。けれども、そっちの方がおっかないです。となれば今、お話されてるように、東電の社員、そして関係企業、協力会社、それぞれが認識を新たに、自分たちも自分たちの技術を上げていってもらえないわけです。そのことは私も継続して東電にはお話をさせていただいておりますし、今後もさせていただくつもりでございます。また、皆さんの方からもそういった機会がありましたら東電主催の説明会の際に、そういった厳しいご意見も含めてお話しただければいいと思います。

しかし、東電もさすがに、100%かどうかは、それこそわかりませんが、心を入れ替えて、制度を含めて、覚悟を決めて、先ほど申し上げたように、原子力本部を一地方都市の柏崎に移すという覚悟を決めているわけでございますので、私はその心意気、覚悟に期待したいというふうに考えております。

司会：はい、〈質問者〉様ありがとうございました。時間も近づいてまいったんですが、まだ、ご発言されてない方でご意見ご質問ある方おりましたら、挙手をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。はい、今、マイクをお持ちしますのでお待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉と申します。使用済み核燃料のことについてお伺いします。先ほど、柏崎刈羽に9割方もう埋まっているという話があって、ニュースなんかでも、むつの方に動かすということを言ってるんですけども、それは1%にも満たないような量を今、動かすというだけで、すぐにまた埋まる可能性が十分にあるわけです。

そして今、使用済み核燃料の処分が全く決まっていませんというより、破綻してますよね。もんじゅが潰れ、六ヶ所村が動かず、それで北海道に今、最終処分場の調査をやってます。行き場がないです。福井県が今、動かしてくれと言って、最終処分場という約束はしてない、中間なんだからどっかやってくれと言って、それを守られていません。この前の福島の海洋放出の場合でも、住民の理解を得て、了解があった上で、放水しますと言ったのを、話を聞いて流してます。そういう姿勢の中で今、使用済み核燃料の行き場がない状態になっています。先ほど市長さんもこのまま動かせば、当然もう満杯になって、やり場がないと言ってます。ということは、柏刈で使用済み核燃料の保管を永久にし続けるかどうかという覚悟を迫られてるんだと思うんです。その辺のところをお伺いしたいと思います。

使用済み核燃料については地層処分とかいうのは、あれは完全にただ言ってるだけで、できっこありませんと思います。だって10万年も地下に置いとくっていうんですよ。10万年まで、地下に置いたものが完全に大丈夫だという保障などできるわけがないです。10万年前ってネアンデルタール人がいた時代ですよ。そこまで管理なんかできるわけないし、もし地下に埋めてしまったら、それこそもうわからない状態の中で被害が増えるだけなわけです。そういうことを踏まえた上で、市長さんはこの原発を動かすということは、要するに放射能

をもっと溜め込んでいく、そのときにどこに処分するかということの確保をどのように考えているのかお聞かせください。

市長： はい、使用済み核燃料の問題でご質問いただきました。少し資料探したんですけども、内容ですが、まず先ほど申し上げました、今、現状は、サイト内全体で81%埋まっています。確かにむつへの搬出があったとしても、それほど大きく変化するものはないかもしれません。それから最終処分場に関しましては、日本においては先ほども申し上げたように神恵内村、寿都町において文献調査が行われている段階です。確かに最終処分場が決定されているところはありません。しかし、一時貯蔵施設ということでむつの一時貯蔵施設は50年の一時貯蔵を可能にする施設でございます。

そして世界のことは、フィンランドのオルキオト、それからスウェーデン、エストハンマルに既に使用済み核燃料の最終処分場は決定し、機能し始めています。世界もこの原子力発電所、もう1回という形になってきています。スウェーデンはご承知のように、1980年に国民投票をやりました。スウェーデンでは、原子力発電所を将来、廃炉するという国民投票です。廃炉するというのをスウェーデンは決めました。しかし、残念ながら今現在も廃炉はできずに、さらに原子力発電所を新しいものを作るという決定を昨年行いました。要は、使用済み核燃料、バックエンドが決まっているスウェーデンにおいても、またフィンランドにおいても、また、決まっていないアメリカにおいても、韓国においても、日本においても当面の間、残念ながらですけども、一時貯蔵という形の中で最終処分場を求めていくということは、他の国と同様変わらないだろうと思っています。柏崎にずっと置きっぱなしにするのかと、最終処分場にするのかということに関しては、私は明確に柏崎は発電をするという責任を担うと、使用済み核燃料の倉庫にするつもりはないと。いうことで、使用済み核燃料税に経年累進課税を、置けば置くほど税率を高くしますよという、税制を作り、今、賦課を東電にしているところでございます。そういった意味で、核燃料サイクルが今、機能していないということ、今回初めてむつの一時貯蔵施設が少し動き始めるということが、少しの最初の一步ではありますけれども、冒頭申し上げたように、六ヶ所村がまだ竣工延期を繰り返しているということに関しては、ご指摘の通り、まだ機能しきれてないということは、おっしゃる通りでございます。

しかし、同時に、柏崎市、少なくとも私は柏崎市を使用済み核燃料の最終処分地、もしくは保管地にするつもりはないと、その具体的な証拠として使用済み核燃料の経年累進課税を作り、今、機能させているということでございます。

司会： はい、ご質問ありがとうございました。大変申し訳ございません、終了時間となりましたので、以上をもちまして質疑応答の方は終了とさせていただきますと思います。これまでいろいろまた再質問ということで、まだまだ多くの質問あったかと思いますが、ご容赦願いたいというふうに思っております。また、今日は12人の方からご質問いただきまして大変ありがとうございました。感謝申し上げます。

それでは、以上をもちまして柏崎刈羽原子力発電所に関する再稼働に関する懇談会の方を終了とさせていただきます。長時間大変ありがとうございました。

市長： ありがとうございます。足らなかった部分は、また、市長への手紙等でも、あんまりいっぱい来てもらっても本当は困りますけれども、足らなかった部分は市長の手紙で対応させていただきます。ありがとうございました。